

## RX-78NT-1

ALEX

アレックス

ニュータイプとして成長するアムロ・レイの驚異的な反応速度に追隨する機体を用意すべく、地球連邦軍の発動した「G-4計画」の一環として独自に開発されたニュータイプ専用ガンダム。各部関節のマグネット・コーティング処理、全天周視モニターとリニア・シートの採用、スラスターの増設による総推力の増強など、機動性と機体追従性を中心とした改良が実施された。最終的に完成した機体は、ニュータイプの搭乗で第三世代MSに匹敵する能力を発揮するまでにいった。



全高	18.0m
全長	40.0m
全幅	72.5m
製造国	ルナ・チタニウム会
主エンジン出力	1,420kW
質量	174,000kg
最大機動半径	5,900m
武装	頭部60mmバルカン砲×2 腕部90mmガトリング・カン×2 ビーム・ライフル×1 ハイパー・バズーカ×1 ビーム・サーベル×2 シールド クリステリーナ・マクケンジー

## GUNDAM MS Bible 27

### CONTENTS

■ 戦場レポート アレックス、起動	01	■ MS戦記 アレックス 戦術の記録	16
■ MS機体解析 機体解説 武装解説 機体バリエーション	05 09 10	■ MS進化論 アレックス 開発系図説	18
■ 関連MSラインナップ アレックスと関連機体	12	■ メカニック・ジャーナル フルアーマー・オペレーション 姿勢制御 パーニア サイド6 (新サイド5)	22 30 32
■ MSパイロット クリステリーナ・マクケンジーと周辺人物	14	■ ガンプラ ジェネレーション 増設装甲の有無によって変化するシルエットを検証!	34







『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』第4話「河を渡って木立を抜けて」より

# アレックス、起動

## 運用MS 地球連邦軍／リア軍

リボア・コロニーは自衛を目的とした武装船艦（リア軍）を有するが、対地／対人戦闘を主眼としていたため、公設軍のMSには対応できなかった。一方、グレイファントムは連邦軍所属でMS部隊（スカーレット隊）を保有している。



GRAY PHANTOM  
グレイファントム



RGM-79SP  
GM SNIPER II  
ジム・スナイパーII



RGM-79C  
GM COMMAND  
ジム・コマンド



RX-77D  
MASS PRODUCT GUNCANNON  
量産型ガンキャノン

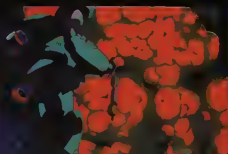


RH-35E  
DRAKEN E  
ドラケンE



RX-78-2  
ガンダム

ニュータイプ用に設計されたスラスターと装甲を組み合わせ



一年戦争後期、RX-78-2 ガンダムの驚異的な戦闘記録に注した地球連邦軍はこれまで懐疑的だったニュータイプ存在を認め、ニュータイプ専用の新型ガンダム開発計画をさらに推進した。のちに「G-4計画」と謳われた開発計画はU.C.0079年8月にスタート、同年12月には試作機が完成した。コードネーム「アレックス」と名づけられた試作機はホワイトベースへの移送が決まり、サイド6のリボーンコロニーで最終組み立てと稼働試験が行われる手はなくなっていた。だがこの情報ジオン公国軍に漏洩したことから、中立コロニー内でMS戦が勃発してしまう……。

## 戦闘地域

サイド6は、一年戦争終結後のU.C.0079.01.17に中立を宣言、地球連邦とジオン公国のどちらにも属さず、どちらの機動行為にも加担しないとの立場を表明した。しかし条約の批准を巡って諍論が沸いたことから、連邦軍は機密裏にリボーンコロニーに着地を強行。表面ではUNメディカル・センターという医療技術施設を装いながら、施設内ではMSの開発と稼働試験を行い、アレックスもこの施設で組み立てられている。

UNメディカル・センターは、調子や満足といったメカロニクスを中心とした開発を行っていたが、その技術がMSの開発に転用されたものと考えられる。



■UNメディカル・センター全景



BNT-1 ALEX  
アレックス

最新型ガンダム。新技術を多量投入した。シャバム・アーマー（開発者）もそのひとつ。

VS



MS-10E KÄMPFER  
ケンパー

高耐久力に実打もされた一級機をコンセプトにする汎用型MS。長時間の飛行も可能だが、その分、反撃力は通常型に劣っている。

## 運用MS ジオン公国軍 / サイクロブス隊

アレックスの確保もしくは破壊を命じられた公国軍特務部隊（サイクロブス隊）がリボーンコロニーに侵入。コロニー内で戦闘に及んだ。しかしどんなに優秀な特務部隊とはいえ、小隊ひとつでこの任務は重く、実際の便ら体感で前に過ぎなかった。



サイクロブス隊  
(シュタイナー / ガルシア ミーシャ パーニ)

## HISTORY TIMELINE — 戦いの展開 —

### ■核攻撃を回避する孤独な戦い

アレックスの反撃でケンパーは撃破されサイクロブス隊も壊滅。だがその裏でグラナダから核ミサイルを搭載した艦隊が発進していた。リボーンコロニーごとアレックスを消し去ろうというのだ。隊の生き残りのパーニは、核攻撃を回避すべく、アレックスに単独での決戦を挑む。

近距離からのカリング熱の害を受けたケンパーは沈没。サイクロブス隊の計画は失敗したものと見られたのだが……



川崎市グラナダから核ミサイルを搭載した艦隊が発進。クリスマス島に到着しリボーンコロニーへの攻撃が命じられた。



地元の少年アルの協力を得たパーニは、核攻撃を回避すべく、破壊したザクIIを修理。アレックス艦内に乗り出すのだった。

# MS 機体解析



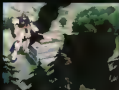
RX-78NT-1 ALEX  
アレックス

## 画期的な新技術を投入して 地球連邦軍が開発した ニュータイプ専用ガンダム

RX-78NT-1 アレックスは一年戦争期に開発された地球連邦軍のニュータイプ（NT）専用試作MSである。ニュータイプ存在に懐疑的だった連邦軍がジオン公国軍に遅れて完成させたNT対応機で、機体追従性と基礎性能の向上に主眼が置かれている。これは、常人離れた反応速度というニュータイプの表層的な能力に着目した設計思想の表れであり、サイコミュシステムによってニュータイプの感応波の軍事利用を図った公国軍の発想とは根本的に異なっている。また、本機はRX-78 ガンダムの3号機を参考とした一年戦争における4機目のガンダムとも言われ、一方で「ガンダムNT-1」とも呼ばれた。NT専用機としての特殊性は薄かったが、さまざまな新技術が投入された本機は、のちに誕生する第二世代MSへの橋渡しとも言える役割を担うことになったのである。



一年戦争末期に開発が進められ、アムロ・レイの専用機として開発された。第一号作機への投入を予定していたという。



サイド6のリボー・コロニーで最終調整が行われたが、公国軍の「ルビコン作戦」の犠牲となって実戦を経験する。

### 機体比較



RX-78NT-1  
ALEX  
18.0m

MS-18E  
KÄMPFER  
17.7m

MS-06FZ  
ZAKU II FZ  
17.5m

機体サイズは一年戦争当時のものとしては画期的で、各機にはガンダムタイプMSの特徴が見られる。一方で、新機体や新機には独自の設計が散見されており、RX-78 ガンダムよりもしつかりとしたフォルムを有している。



機体スケール  
パイロットとの対比。

RX-78NT-1  
ALEX  
Front view

# MS 機体解析 機体解説

## アムロ・レイによってもたらされたデータを参考としたNT対応機への技術的アプローチ

アレックスの開発はU.C.0079.08に始まり、翌月にはアムロ・レイのデータが参考として採り入れられた。ニュータイプと噂されたアムロのデータを目標値として、「RX計画」の課題のひとつだった機体追従性の向上を目指したのである。開発拠点は北米のオーガス基地で、一説には「G-4計画」と呼ばれるプロジェクトに組み込まれていたとも言われる。機体各部の「[U.N.T.SPACY]」のマーキングが「Under Normal Tactical (非常常戦術)」と「Special Assortment Construction Yard (特別分類建造場)」の略称だったとする説も、本機の特長性を物語っていたと言える。

### ■頭部

頭部はガンダムタイプMSの構造を踏襲しているが、カメラやセンサーなどのデバイス類はRX-78のものより小型化された新型を採用していたと言われる。また、従来の教育型コンピュータにさらに高度化した高速大容量コンピュータ「NICONシステム」を搭載し、その自己学習型AIの機能によって機体制御を統括していたとされる。



フェイス部分の形状はRX-78に近い。V字型アンテナ基部のユニットには型式番号が記されていた。



組み立て途中のアレックスの頭部。顔の部分に設けられたダクトらしきスリットが特徴に挙げられる。

V字型アンテナとデュアルセンサーを備え、空中戦闘用の頭部も非常に繊細な構造になっている。



メインカメラと後方監視カメラは従来のRX-78より大型化し、データ収録用サブシステムも備える。

### ■胴体

胴体にはメインジェネレーターとして2基の格納反応炉を内蔵し、胸部に冷却用の複合インタークーラを配している。この構造は開発途中で採用されたもので、ジェネレーターの稼働効率と安定性の向上につながり、出力も従来機の1.3倍に強化されていた。また、背骨のランドセルとメイン・スラスターも大型化されている。



胴体にはRX-78と同じルナ・チタニウム合金が用いられ、近距離でのグレネードの爆撃にも耐える優れた性能を確保した。ランドセルは機力強化を目的に大型化されており、コロニー内空間においても優れた運動性を示している。

### ■コクピット・ハッチ



コクピット・ハッチは胴体中央に位置し、上側にスライドして開閉される。上はその構造と人型の対比図

### ■胴部ハッチ開放状態



胴部ハッチ機体を露出してパイロットが降参することも可能。機体デックなどではこの方式で降参を行った。



RX-78NT-1  
ALEX  
Rear view

## ■コクピット

ニュータイプパイロットの操縦を想定した本機は、操縦性の向上と負荷の軽減を目的に、リニアシートと全天周モニターを採用している。さらに、ナビゲート・システムのプロセッサを3基に増設することでキャバシティブを強化し、一般的なパイロットでは扱いきれないほどの反応速度を実現していた。



リニア・シートはノーマルスーツの背部をシートに固定する構造で、シートベルトを必要としない。

全天周モニターはCG補正を行った映像を360度映し出し、シミュレーターとしても使用できる。



左はハッチ開閉部のコクピット。下はコクピットの内部構造で、上下2層のリング状コンソールを備える。



## ■腕部

機体操作性向上のため、本機は設計段階からマグネコ・コーティングを挿入し、駆動系にその処理が施されている。それにより、既存の機体の3倍以上の反応速度を実現していた。さらに、駆動部のフィールド・モーターが小型化されており、腕部は内部スペースの確保によって固定武装（後述）の搭載が可能となった。



マニピュレーターは従来の機体とは異なり、各指などにより精巧で複雑な形状となっている。



固定武装を内蔵したため、腕部は大型化している。また、肘や肩の関節部にはシーリング機構が備わっている。

## ■脚部

本機の推力は17万kg以上と、RX-78-2の3倍以上に強化されている。それにとりなって推進剤の消費量も増やされ、同時に脚部自体をスラスタ・ユニット化するという設計を採り入れている。腿部にスラスタと大容量のプロペラントタンクが装備され、その推力を利用してホバ・走行のよみ地表を滑走することも可能だった。



上は駆動部の構造。装甲が従来の一体成型から継ぎ方式に改められたことで、各部関節は可動範囲が拡大している。



両側面と後方にプロペラントタンクとスラスタを配しているため、脚部は星型に似た形状となっている。

## ■姿勢制御用バーニア

本機は運動性の強化にも重点を置いており、その設計思想は機体各部に設けられた19基もの姿勢制御用バーニアに表れている。それによって本機は優れた空間機動性を獲得していた。当時の連邦軍のニュータイプ研究は基礎段階で、ニュータイプ対応機を従来のMSの高性能化という手法を採ったのである。



ニュータイプの反応速度に匹敵できるだけの機体操縦性と、それに対する高機動性の確保が図られている。

従来のMSを凌駕する機動性を有するが、正に並みのパイロットでは扱いきれないほどの機動性となっていた。



左と下の角がついた部分が主な姿勢制御用バーニアの配置箇所。肘や関節部など多く設けられている。



19箇所という姿勢制御用バーニアの数は従来の機体と比べて、大分力と相まって本機の性能を向上させていた。



# MS 機体解析 機体解説

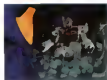
## フルアーマー・オペレーションに基づく追加装甲と実戦で用いられた各種兵装

アレックスの機体名称は「RX」と「Armor Layered EXamination (装甲積層試験)」の略称をかけたものと言われ、後者は地球連邦軍のMS運用構想「フルアーマー・オペレーション」の一端とする説もある。その構想に基づく本機の追加装甲装着形態が、RX-78NT-1FA アレックス (チョバム・アーマー装着型) である。「チョバム・アーマー」と呼ばれるこの追加装甲は、ルナ・チタニウム合金のシートとナイロン・マイクロメッシュの積層板と装甲鋼板のサンドイッチ構造で、偽装の意味合いもあったとされる。

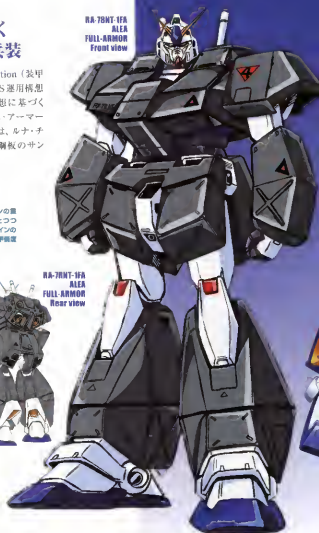


MS用ショット・ガンの狙撃距離では届かず、チェンソー・マインの直撃にも耐える装甲構造を西った。

チョバム・アーマーは装着されることで新機を収容する構造となっており、装甲は一続きで行われる。左はチョバム・アーマー装着時のコックピット・ハッチ開放状態



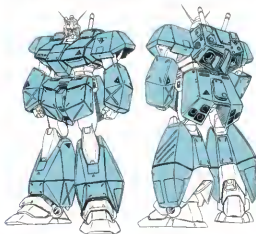
RX-78NT-1FA  
ALEKKS  
FULL-ARMOR  
Rear view



RX-78NT-1FA  
ALEKKS  
FULL-ARMOR  
Front view

### ■チョバム・アーマー スラスター

チョバム・アーマー装着時は機体重量が95.0tまで増大し、その分機動性も低下する。これを補うため、チョバム・アーマーにはスラスターと補助バーニアが設けられて、装甲の一部は本体のスラスター・噴射に連動して展開する構造となっていた。また、本形態では使用可能な姿勢制御用バーニアは19基から13(3+10)基に減っている。



4 高い部分がチョバム・アーマー

### TECHNOLOGY/INFO

#### チョバム・アーマーの技術継承

本機に採用されたチョバム・アーマーの技術は、戦後に開発されたRGC-83ジム・キャノンIIに流用されている。ただし、追加装甲としてではなく機体本体の装甲にその概念を取り入れており、きわめて堅牢な防御性能を実現している。なお、アレックスにはチョバム・アーマーだけでなく「FSWS計画」(連邦軍の増加ウェポンシステム構想)に基づく試験案も存在したと言われている。



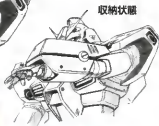
RGC-83 ジム・キャノンII  
RX-77-4 ガンキャノンIIの機體化を目指した中絶機体運用MS。大出力の砲撃兵器と装甲層を兼ね備えた異常な機體。



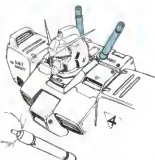
通常は格納されている  
ガトリング・ガンだけに、  
照準機構としての性格  
が強い。ただし火力は  
通常兵器に匹敵するも  
のがある。



3本の銃身が回転  
して射撃を行う機  
構で、発射時には  
前部のカバーが  
上下に滑って露出  
する。



収納状態



発射通った外観は従来のものと  
さほど変わらないが、内部構造は大き  
く変化していたと推測される。



ランドセルがサーベルホルダーを過  
なる重さではRX-78と同じだが、配重  
は側面から上面に変更されている。

## ■胸部ガトリング・ガン

胸部ガトリングガンは両肩関節に内蔵された固定武装  
で、90mm口径の实体弾発射兵器である。隠し武器としての  
性格が強く装弾数も多くはないが、MSの装甲を容易に  
貫通する威力を有している。携行兵器の補助として有用  
性は高かったものの、複雑な構造から堅固性とコストに問  
題があったため、以降の一般的な兵器とはならなかった。



胸部ガトリング・ガン  
を実射するアレック  
ス。リボア・コロニー  
における一連の戦闘  
では主兵器として用  
いられた。

## ■ビーム・サーベル

近接戦闘用兵器として、2基のビーム・サーベルを装  
備している。型式番号は「Blash-XB-B-09」とされ、ビ  
ーム刃の発振部の形状が従来とは異なる新仕様のもの  
だった。非使用時にはランドセル上面にマウントされ、そ  
のコネクタ部がブラッシュ社製となったことが、発振部  
の形状変更の原因だったと言われている。



本戦の兵器はRX-78  
に載ったものが 確  
んどで、実戦で威力  
が示されたビーム・  
サーベルそのものと  
つた。

## ■頭部バルカン砲／その他

頭部には連射弾MSの標準装備であるバルカン砲が  
2基内蔵されている。口径は従来機と同じく60mmだが、  
弾頭の形状や材質、炸薬が異なる新仕様だったとする  
説もある。また、携行兵器として専用のビームライフルや  
ハイパーバズーカ、シールドも開発されていたが、リボ  
ア・コロニーでの最終決戦には間に合わなかったとされる。



頭部バルカン砲を発  
射するアレックス。口  
径や構造はRX-78  
などと同じで、弾頭は  
どこから部分に位置  
している。

MS-18E ケンパフ  
アとの戦闘では不意  
を突くかたちでガト  
リング・ガンの連射を  
浴びせ、駆逐に成功  
している。



MS-06F2 サクロ  
との戦闘の際、ビ  
ーム・サーベルで敵  
のコックピットを撃  
ち、機体になりながら  
も戦線を離れさせた。



リボア・コロニーの連  
射連射に巻き込ま  
れた時点では、ショ  
ン・アーマーと連射を  
繰り返して倒されて  
いなかった。



# MS 機体解析 機体バリエーション



## RX-78AN-01 GUNDAM AN-01 TRISTAN ガンダムAN-01トリスタン

### アレックスを原型とする 私兵集団「バーナム」の 謎多きガンダムタイプMS

実戦投入の直前にジオン公団軍の標的となり、機体を損壊したまま終戦を迎えたアレックスのその後の経緯は、長らく明らかにされてこなかった。だが、それから15年以上が経過したU.C.0096に起こったある事件に姿を現したMSが、アレックスの消息の一端を物語ることになる。それが、RX-78AN-01 ガンダムAN-01 トリスタン（以下「トリスタン」）という機体だった。

トリスタンには不明な点が多いが、アレックスをベースとした改修機だったとされる。一説には、終戦後に地球連邦軍傘下の研究施設へと送られたアレックスが、のちにブッホ・ジャンク社の手に渡ってトリスタンの原型になったと言われている。そして、ブッホ・ジャンク社の創業者シャルンホルスト・ブッホが組織した私兵集団「バーナム」によって運用され、サイコフレームを巡る争いに投入されている。

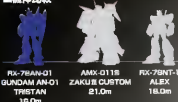


サイコフレームの研究開発を促進するためアレックスに似た連邦軍特許取得「マスティマ」の機に流れ、交換に及んだ。



アレックスをベースとする改修機とされるが、その機体構造は完全に生まれ変わり、連邦軍とも異なる形態の下に運用された。

#### ■機体比較



RX-78AN-01  
GUNDAM AN-01  
TRISTAN  
18.0m

AMX-0118  
ZAKU CUSTOM  
21.0m

RX-78NT-1  
ALEX  
18.0m

機体サイズはアレックスとほぼ変わらず、最もが簡略化されたU.C.0090年代後半に在りてはやや小柄の機体に入っていた。一方で、一年戦争時の機体設計をはじめとして機体各部が新造されており、フォルムの印象は大きく変化している。



RX-78AN-01  
GUNDAM AN-01  
TRISTAN  
Front view

#### SPEC

全高 18.0m 本体重量 45.0t 全機重量 59.8t  
 基準配置:フル・チャーム合金  
 ジェネレーター出力 11,800kW  
 スラスター推力 114,000kg  
 武装 連装 90mmバレルガン×2、連装 90mm対リンク ガ  
 ン×2 ヒームサーベル×2、ヒームライフル、シールド



トリスタンはバーナムの機体クワンタン・フェルモに属せられ、アレックスへの導入作戦に投入された。

# MS 機体解析 機体解説

## 新旧のパーツを用いて改修が施された トリスタンの構造と独自のシステム

トリスタンの開発経緯は明らかになっていないが、損傷したアレックスにジャンク品を含む新旧のパーツを流用して改修を施した機体だったと言われている。頭部や胴体、バックパック、足尾のスラスターなど部位の多くが新造で、アレックスの特徴を残している部分は決して多くない(臀部や胸部の複合エア・インテークなどにかつての面影を感じ取ることができるが……)。また、RX-78KU-01 クレヴェナール(後述)の中継ユニットとしての機能が付与されており、アレックスをベースとしながらもまったくの別物になっていたと言えるだろう。



マスティマに同行した  
ダントン・ハイレックが  
愛する AMX-011S ザク  
面影と交差するも、左  
部に隠れ込まれた。



頭部に装束されてアク  
シズ内部から一掃駆逐  
し、クレヴェナールとト  
ッキングして再びマス  
ティマを襲った。

### ■頭部

頭部は新造された部位のひとつで、アレックスとは形状が大きく異なる。ただし、ガンダムタイプMSとしての特徴は残されており、高短2対のV字型アンテナを備えている。また、こめかみ部分には口径 60mm のバルカン砲2基が内蔵されている。



頭部のデザインはアレックスとはかけ離れており、別系統の技術を推察させるものだった。



一年戦争で失ったアレックスのものに代えて、新たなガンダムタイプの頭部が与えられていた。

### ■バックパック

バックパックも新造ユニットが用いられており、2基のバーニア・アームを備える構造はRX-178 ガンダム Mk-II のものに類似している。バーニア・アームの前側にビーム・サーベルがマウントされる仕様も同じで、2基が装備されている。



バックパックのスラスターは2基で、ガンダム Mk-II のものとほぼ等しい。

### ■兵装

サイコフレームを巡る戦闘では、専用に開発されたと見られる各種兵装の運用が確認されている。それらの兵装のほか、ビーム・ライフルとシールドを携行していた。さらにアレックスの胸部ガドリリング・ガンもそのまま流用されていたと言われる。



専用部として  
開発されたと説  
かれるシールド  
固定部からのビ  
ームを結ぶ部  
を有していた。



### ■クレヴェナール

トリスタンを中継ユニットとするアームベースがこの「クレヴェナール」で、バーナムが秘密裏に開発した機体と考えられている。機体構造はRX-78GP03 ガンダム試作3号機にも近く、遠隔操作が可能な兵装を複数搭載していた。



機体上部にウェポン・コンテナを据え、トリス  
タンは胸部中央にドッキングする。

### ■パイロット

トリスタンのパイロットはバーナムに所属する強化人間、クェンタン・フェルモが務めた。連邦軍オーガスタ基地に併設されたニュータイプ研究所の試験体だったと見られ、バーナムのMS部隊を率いてアクシズに侵入した。



# 関連MS ラインナップ



# RX-78NT-1 ALEX アレックス

新たな  
機能を得て  
進歩性の  
向上に成功



アレックス  
とパーツを  
共有する  
上位型ジム



一年戦争後  
に登場した  
支援MSの  
集大成



## 旧RX-78-2 ガンダム

地球連邦軍が発動した「V作戦」によって完成した試作MS。一年戦争終盤、パイロットのアムロ・レイがニュータイプ能力を急激に成長させたため、パイロットの動きに機体が追いつかないという事態が発生。この解決として取り入れられたのがモスク・ハンの開発によるマグネット・コーティング技術である。関節部などの摩擦面に磁気コーティングを施すことで摩擦抵抗を減少させ、結果的にガンダムの反応速度は従来の3倍以上となった。



ガンダムでその有用性が認められたマグネット・コーティング技術。アレックスでは部計・関節部から導入されている。

## 旧RGM-79N ジム・カスタム

一年戦争後に地球連邦軍が精行した「連邦軍内蔵計画」の一環で開発された機体。ジム・スナイパーカスタムやジム・コマンド、さらにアレックスの開発技術もフィードバック。アレックスについては開発施設が同じオーガス基地だったことから基本設計の一部やパーツ規格までもが共通化された。そのため当時の連邦軍MSの最上位機となったが、性能に比例してコストも増大、生産機数も少なく、エース級パイロットへの配備に留まっている。



U.C.0083に開発したデラース戦争ではアルビオン部に配備され、ガンダム試作2部品の部品在庫を削減したことで知られる。

## 旧RGC-83 ジム・キャノン

ジム・カスタムと同時期に開発された地球連邦軍の知識軍支援用MS。生産ラインの多くをジム・カスタムと共用するため、基本フレームやジェネレーターはほぼ同一構造をしている。本機独自の装備としては外気にはアレックスのフルアーマー・システムのコンセプトが受け継がれ、チョバム・アーマーに類似した複合装甲が採用された。それと同時にスラスター数も増加されたため、機動性の軽微な低下は免れたようである。



複合装甲は外付けの部品部ではないため、チョバム・アーマーのようにバースは不可。ただし序戦時には各部が部破される。

ニュータイプの運用を考慮した仕様変更を施されたG-3ガンダムでは、マグネット・コーティングの実用試験が行われた。



バックパックや部品のスラスターのパーツ構造がアレックスと共通している。ただしビーム・サーベルは2部から1基のみに変更された。



両肩のキャノンはビーム式を採用。そのため反動は大幅に軽減したが、部品の削減にはスタビライズ・ギアを併用する。



株式会社を継承する  
京子のMSパイロット、  
フェルモ兄弟の  
兄のクワンタンが  
乗車。オーガスタ研究  
所で強化人間の手術  
を受けたのも、ロナ  
達の機兵として活躍  
している。



ジオ公団軍の新人  
パイロット、バーナ  
ード・ワイズマン(バー  
ニー)が搭乗し、サイ  
ド6での戦闘に参加  
したが搭乗し、機体  
を破壊させている。



ジオ公団軍特務部  
隊(サイクロプス隊)  
のパイロット、ミーシ  
ャが搭乗。戦術の選  
好のため、コクピット  
にスクリーンを持  
ちこんでいた。



私兵集団に  
与えられた  
改修型  
アレックス



規格統一で  
生産性が  
操縦性が  
向上したMS



戦争末期に  
開発された  
公団軍  
最後のMS



## ■RX-78AN-01

### ガンダム AN-01 トリスタン

UC.0079.12.25にサイド6でザクII改と交戦し、大きな  
損害を受けたアレックスはルナツーに放置されていたの  
だが、UC.0084にオーガスタ研究所が改修。強化人間  
の育成や各種実験に用いられた。しかし研究所の閉鎖に  
伴い、奸商曲師の屋敷にロナ家の所有物となったとされ  
る。その後、ブッホ・ジャンク社に譲与された機体はさま  
ざまな改修を施され、「トリスタン」と名づけられた。



機体ダクトリング部  
を継承。する一方、  
バックパックは一  
部。ガンダムMk-II  
に近い可動式スラ  
スターアームを  
採用している。

## ■MS-06FZ ザクII改

一年戦争を通じて多くのMSやMAを開発したジオ  
公団軍だが、メーカーごとに部品や部材が異なり、生産  
性や整備性の妨げになる事態が頻出。そこでマクベガ  
破壊したのがMSの基本フォーマットを共有する「統合部  
備計画」で、この計画を元に改修されたザクIIが本機で  
ある。ベース機との大きな違いは総推力で、合計推力を  
比較すると70%も向上。5型に匹敵する出力を持ちなが  
らも操縦性はF型に準ずるとまで評価された。



推力が向上したこ  
とで、コロニー内  
ではホバー推進が  
可能となった。た  
だし1G重力下で  
も実施できるがど  
ろがは操縦難化。

## ■MS-18E ケンパファー

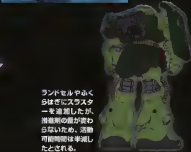
一年戦争終戦直前に進行された「統合整備計画」に基  
づいて開発された機体。大推力スラスターと姿勢制御パ  
ーニアを各部に搭載し、1G下での短時間飛行を可能と  
した。この圧倒的推力を利用した一撃離脱戦術が本機の  
基本戦術で、強襲用MSにカテゴライズされるのもその  
ためである。反面、機体軽量化のために装甲は極力薄  
く抑えられ、さらに推力確保のためにビーム兵器の搭載を  
控え、実弾系で占めるようになった。



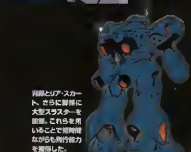
大推力に貢献した  
ビーム・サーベル  
が本機唯一のビー  
ム兵器。ちなみ  
にこの装備はグル  
ープのビーム・ナ  
ギナウから派生し  
たとされる。



トリスタンを中核ユニットとするアームドベースでコードネ  
ームは「クレヴェンセル」。3層層になったウェポン・コンテ  
ナにミサイル、3連装ビームガン、大型コロを内蔵する。



ランドセルやふく  
らはぎにスラスタ  
ーを追加したが、  
推進剤の量が合わ  
らないため、活動  
可能時間は半減し  
たとされる。



胴部とリアスカー  
ト。さらに胴部に  
大型スラスターを  
搭載。これらを用  
いることで短時間  
ながらも飛行能力  
を獲得した。



# MSパイロット——クリスティーナ・マッケンジー——

## アレックスのテストパイロットを務め、 故郷のコロニーで戦いに身を投じた女性

クリスティーナ・マッケンジー（愛称「クリス」）は地球連邦軍の一員としてアレックスの開発に関わり、同機のシステムエンジニアとテストパイロットを務めた女性だった。

U.C.0076.09に連邦宇宙軍士官学校に入学したクリスは、その2年後に士官学校を首席で卒業して戦技研究団に配属されたと言われる。そして、一年戦争が勃発する以前に宇宙軍統合技術開発本部麾下の試験部隊へと転任し、「シューフィッター」と呼ばれる教育型コンピ

ュータの心理学的トレーナーを務めることになったという。その後、クリスが属する試験部隊はG-4部隊に再編され、ニュータイプ用ガンダム——アレックスの調整に携わった。その機密任務のために故郷であるサイド6のリボーンに戻ったクリスは、中立コロニーの穏やかな日常を身を置いたつら、アレックスの最終調整に従事する。しかし、自らの任務がリボーンに戦火を招いたことで、クリスは己のなすべきことを探そうとしたのだった。



機密の任務を帯びて生まれ故郷のリボーンコロニーに戻り、平和な日常を送る一方でアレックスの調整に従事する。しかし、争いの渦中に巻き込まれ、戦う覚悟を燃やすことになる。



## クリスティーナ・マッケンジー Christina Mackenzie

### DATA

年齢：21歳 所属：地球連邦軍 階級：中尉 出身：サイド6/リボーンコロニー 能力：教育型コンピュータドトレーナー（シューフィッター）、MS特長



幼少期のアルを母のように見守ったが、家がサイクロプス軍と密着していたことは驚かされた。



アレックスのテストパイロットとして実戦を体験するも、それがもたらした被害に苦悩するのだった。



クリスが使用した連邦軍の銃器。一般的なものはデザインがやや異なる。

### ▶アレックスを運るリボーンでの戦いとクリスの奮闘

U.C.0079.12、クリスはサイド6リボーンのUNメディカルセンターに赴任し、そこで機密裏に進められたアレックスの最終調整に携わる。だが、12月13日のジオン公国軍によるリボーンへの威力偵察でアレックスの動向が露見し、その奪取を目的とした「ルビコン作戦」が実行に移されると、クリスも気付かぬうちに戦いのときは迫っていく。そして12月19日、コロニーに潜入していた公国軍特殊部隊「サイクロプス隊」が行動を起こし、UNメディカルセンターがMS-18E ケンパファーに

襲撃される。その状況に際してクリスはデブダム・アーマー装備のアレックスで迎撃を行い、ケンパファーを撃破。さらに、12月25日にサイクロプス隊の生き残りがMS-06FZ ザクⅡ改で再びUNメディカルセンターを襲撃すると、クリスは弾薬の補給もままならないアレックスで出撃する。無人の森林地帯でザクⅡ改と交戦したクリスは、敵が仕掛けたトラップに苦しめられながらも敵MSを撃破した。しかし、その戦場でアレックスは大破し、負傷したクリスはリボーンを去るのだった。



ザクⅡ改との戦闘では傷を負いながら総討ちに近い状態でも戦いを続けた。



一年戦争が終結したのちに地球へと転任し、アルに別れを告げてリボーンを離れた。





### 戦場の舞台となった地域



### 北極基地

一年戦争のころに地球連邦軍が駐屯していた基地。詳細な位置は不明で基地の規模も小さいが、シャトルの打ち上げ施設を保有。アレックスのパーツもここから打ち上げられた。

### サイド6

L4に建設されたコロニー群で通称「リムー」一年戦争終結に中立を宣言し、地球連邦 ジオン公国どちらの戦争行為にも加担しない姿勢をとった。しかし連邦軍との妥協拒絶の理由に、リボ・コロニー内に連邦軍実験施設の建設を許してしまっ

### UNメディカルセンター

サイド6のリボ・コロニーに設けられた医療技術開発施設。表面きは義手・義足に関するメカロニクスの開発を行っているが、実は連邦軍実験施設の隠れ家である。

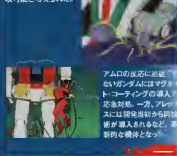
### グラナダ

月の裏側に位置する、月面第二の都市。一年戦争のころはジオン公国軍実験機動軍の本部が置かれ、ジオン本土最終防衛ラインの一角を占める重要拠点となっていた。

01

### ニュータイプ専用機開発計画

地球連邦軍によるニュータイプ専用MSの開発計画はU.C.0079.08に開始された。RX-78-2の武装・機体をフィードバックしたこの機体は「アレックス」というコードネームを取得。サイコミュ・システムは未搭載だったものの、マグネット・コーティングや全天周波センサーといった最新技術の導入によって機動性や運動性を増強。結果的にニュータイプの反応速度を反映可能と考えられた。

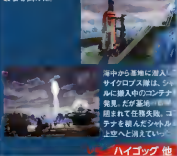


アムロの反応に定着しないガンダムにはマグネット・コーティングの導入が不可欠。一方、アレックスには開発当初から同技術が導入されるなど、革新的な機体となった。

02

### 北極基地での攻防戦

オーガスタ基地での開発終了後、パーツごとにコンテナに梱包されたアレックスは連邦軍北極基地に移送。そこからシャトルで宇宙に上げられ、サイド8で組み立てと調整作業の後、ホワイトベースに輸送される手はずになっていた。だがアレックスの情報を聞き及んだジオン公国軍が特務部隊（サイクロプス隊）を派遣。北極基地を襲撃し、アレックスの奪取もしくは破壊を試みた。

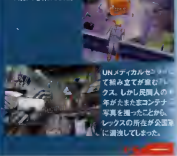


海中から基地に潜入しサイクロプス隊は、シャトルに侵入中のコンテナを発見。だが基特が超えられ任務失敗。コンテナを壊んだシャトル上空へと消えていった。

03

### サイド6への移送

サイド6のリボ・コロニーに輸送されたコンテナはUNメディカルセンターに移送。組み立て作業と並行して、「シューフイッター」と呼ばれる専任プログラマーによるAIの調整作業が行われた。一方、とある偶然からアレックスの行方を模索つけたサイクロプス隊は機動作戦を展開。友軍部隊にサイド6宙域で襲撃を行わせ、それに巻き込まれた民間船を被ってコロニーへの潜入を果たした。



UNメディカルセンターに組み立てが完了したアレックス。しかし民間人の手元がたまたまコンテナを開封したことから、アレックスの存在が公衆に露見してしまっ

## 戦況の経緯

一年戦争においてジオン公国軍はニュータイプの軍事利用を推し進め、具体的な成果を挙げるまでになった。一方、地球連邦軍はMSの開発と量産体制の確立を急務としたため、ニュータイプ研究で立ち遅れてしまう。しかしオーガスタ基地の協力の下、U.C.0079.08からニュータイプ専用MSの開発に着手した。これが「アレックス」のコードネームと考えられた新型ガンダムである。ちなみにアレックスの実験投入を待たずして一年戦争は終結しているが、ニュータイプとニュータイプ専用機の研究・開発は継続。人為的なニュータイプ（強化人間）を創生させるまでに至っている。

### U.C.0079

- 1月3日 一年戦争、勃発。ジオン公国、地球連邦政府に対して独立を宣言。宣戦布告と同時にサイド1、2、4に奇襲攻撃。
- 1月4日 サイド2の8パンチ・コロニー「アイランド・イフィッシュ」、地球落下コースに入る。
- アイランド・イフィッシュ、オーストラリアに落下。
- 1月15日 ルウム戦役、勃発。
- 連邦軍第一連合艦隊旗艦、撃沈。艦隊総司令レズル、捕虜になる。
- 1月28日 公国、サイド6を通して連邦政府に休戦条約締結の申し入れを行う。
- 1月31日 南極条約、締結。レズル、奇跡の生存。

- 2月7日 公国軍、地球落下作戦、開始。
- 3月1日 公国軍、オデッサ地区鉱山基地を占領。
- 3月11日 公国軍、キャリフォルニアベース制圧。公国軍、地上の3分の2を勢力下に置く。
- 4月1日 連邦軍、V作戦とピンチン計画、発動。
- 7月 RX-78ガンダム試作1号機、ロールアウト。続いてRX-79計画、発動。先行量産、開始。
- 8月 連邦軍、試作型MSの最終テストをサイド7で開始。
- 9月18日 ホワイトベース、サイド7に移動。コロニー内で史上最大のMS戦が発生する。
- 11月 連邦軍、ジムを使用した実験データ収集部隊を設立。

## 中立コロニー内の戦闘

U.C.0079.12.19、サイクロプス隊による極秘作戦(ルビコン計画)が実施された。MSケンパファーを使ってコロニー内で争乱を起し、その間に基地内に潜入した隊員がアレックスを誘致もしくは破壊するというのが目的である。中立コロニー内での戦闘に色めき立った連邦軍はコロニー政府に自衛用軍艦の派遣を要請するも同時に、MS部隊の侵襲を拒否。しかしここごとく破壊され、アレックスの保護されていたエリアへの侵入を許してしまう。だがケンパファーが攻撃を加える直前、女性シューフィッターが機体を操縦、ガリリングの高出でケンパファーを沈黙させた。基地に潜入した隊員も排除され、危機は去ったかに見えたが……。

ケンパファーが持ち出したチューブ・インで大破したかに見えたアレックス。しかし破壊されたのは複製機と偽装(チュ・バム・アーマー)だった。



破壊したチュ・バム・アーマーを排除したアレックスは加藤がリリングで反撃。説明を要したけれどケンパファーは沈黙し、ルビコン計画は失敗したかに見えた。

## V ケンパファー

## 核攻撃の危機

ケンパファーの襲撃から一夜明けたコロニーは静けさを取り戻したが、事態は別のところで進行していた。サイクロプス隊はアレックスの所在を確認し、機体をコロニーに留めておくための捨て餌に過ぎなかった。その間、月面都市グラナダから核弾頭を搭載した公国軍艦艇が侵襲。コロニーごとアレックスを消滅させるべく、サイド6に向けて進行を開始した。これがルビコン計画の全容だったのだ。攻撃の開始日はクリスマス当日。この間までアレックスが破壊されないで核攻撃が実施されるのだ。事情を知らない連邦軍はアレックスの修理を進める。一方、サイクロプス隊の唯一の生き残りがこの事実を知り、独自に行動を開始した。

アレックスの損傷を命じられたシューフィッターは、事件の真相を遡る列車に陪同される。そして市民の犠牲者の数(死者500人以上)に愕然とさせられた。



サイド6に向けて航行する公国軍艦艇。核兵器の使用は断固拒否に抵触する重大な違反行為だが、結局の所実情をうと一部特許によって実行された。

## ポケットの中の戦争

アレックスの写真を描いた民間人の少年の協力を得たサイクロプス隊の生き残りが、核攻撃を回避させるべく、単独でアレックスの破壊を注進。サイクロプス隊の隠した武器や必要物資を手に入れた。顔面していたザクII改を修理。さらに爆薬とハンドグレナードを使った罠を敷いた。アレックスに対抗する準備を進めた。そしてU.C.0079.12.25、ザクII改がコロニー内に出現するという事態が発生。コロニー政府や連邦軍の支援を受けられず、アレックスが単独で迎撃に向かった。本来ならザクII改程度の相手は簡単に排除可能なはずだったが、バレットがシューフィッターであることに加えて賢く効果的に働いたため苦戦。最終的に相討ちとなり、一連の事件は幕を閉じたのだ。



爆薬と人型バウンに駆使されたアレックスはザクII改の機体と押し、ヒート・ホークの一撃で右腕のガリリング・ガンが破壊。さらにコクピット周辺にも攻撃が命中し、シューフィッターが負傷している。

## MS OTHER 戦記

## 連邦軍のニュータイプ研究

一年戦争当初はニュータイプの存在に懐疑的だった地球連邦軍だけに、ニュータイプ研究所の設立は一年戦争後に本格化された。とはいえ一部施設では一年戦争中にニュータイプ研究とその能力の軍事転用技術の開発が進められていたのも事実である。たとえば北米大陸に位置するEXAM研究所では、ジオン公国から亡命したラルス・モゼス博士を迎え入れ、ソフトウェア・ハードウェアの両面からニュータイプ能力を再現する機構(EXAMシステム)の研究が行われた。また戦後、オースタ基地に併設されたオースタ研究所ではニュータイプの発現と能力の人為的な拡大が行われた。その間、被験者として選別されたのは戦災孤児で、大まかにテストでふるいにかけられ、見込みのある対象者に薬物投与や心理療法で能力を強制的に引き出すというたとの記録がある。これは生命倫理にもとる行為だが、特例として認識されたようだ。

オースタ研究所に集められた子どもたちはニュータイプの発現の育成を抽出するため、さまざまなテストを受けさせられている。



可能性を見出した子どもは強制的な実験によって能力が拡大する。その過程で精神や肉体に障害が生じても、すべては間に暮らしたのだ。



## V ザクII改

## 戦後も継承されたアレックスの系譜

偶発的な経緯で大破したアレックスではあるが、開発過程で現場で獲得した各種技術はのちのMS開発に継承された。なかでもオーガスタ基地製の機体(オーガスタ系と呼ばれるMS)はアレックスと生産ラインや構成パーツを共用しているため、直系の機体と言えるだろう。とくにジム・カスタムなどにその特徴が顕著に表れている。バグバグや黒部シテックのガンダムはアレックスを踏襲しており、互いの関係性を如実にうかがわせる意匠となっている。

ディターンズの専用機となったジム・クワールはオーガスタ系MSであり、アレックスから得た技術を継承したMSとなっている。



- ・11月7日 連邦軍、オデッサ作戦を開始。
- ・11月9日 オデッサ作戦、終了。
- ・11月30日 公国軍、ジャブロー降下作戦、開始。
- ・12月9日 公国軍特務部隊(サイクロプス隊)、連邦軍北極基地を襲撃。
- ・12月12日 アレックスを載せたシャトル、のリボー・コロニーに到着。
- ・12月13日 公国軍、リボー・コロニーを強襲。
- ・12月19日 アレックス、ケンパファーと交戦。
- ・12月6-リボー政府、公国軍艦艇の強制退去を勧告。
- ・12月24日 連邦軍、ソロモン攻略戦、開始。
- ・12月25日 アレックス、ザクII改と交戦、大破。
- ・12月31日 連邦軍、アムバオ・クー攻撃戦、開始。
- U.C.0080
- ・1月1日 一年戦争、終結。

アムロ・レイ専用として開発されたアレックスは、マグネット・コーティングや最初期の全天周モニターの採用など、当時の最先端技術を投入して開発された。

### KEYWORD

#### ● G-4部隊

当初は地球連邦軍の試験部隊だったが、再編成された部隊名も変更された。サイド6のリボア・コロニーでアレックスの試験を行っていた。

#### ● FSWS計画

一年戦争末期に地球連邦軍が推進したガンダム強化計画。進歩的戦術や戦術により「ガンダム」機の戦闘力を戦術レベルにまで引き上げる」ことを目的としていた。一年戦争以降も同様のコンセプトを持つ機体が開発された。

#### ● サイクロプス軍

ジオン公国軍の特務部隊。アレックスの奪取、もしくは破壊を目的にリボア・コロニーに潜入するが、任務に失敗、生き残った乗員が独自に作戦を実施し、アレックスを破壊する。

FSWS仕様

#### FA-78-1

##### フルアーマー・ガンダム

RX-78 ガンダムに複合増強システムを装着した形態。増加装甲には火器や推進器などが装備されており、ガンダムの総合性能を向上させる結果となった。本機の開発計画は「FSWS計画」と呼ばれ、以降のMS用オプションの開発に影響を与えた。



モニター仕様

#### RX-78-3

##### G-3ガンダム

RX-78 ガンダムの第3仕様機。建造にはRX-78-2 ガンダムの余剰パーツを使用したほか、マグネット・コーティングの採用などの仕様変更が行われている。本機の運用については、戦争末期から終戦にかけて様々な説が存在する。



改良

改良



宇宙戦仕様

#### RX-78-4

##### ガンダム4号機

RX-78 ガンダムを宇宙戦仕様に変化したガンダムタイプMS。当初は5号機の仕様で開発されていたが、後に4号機へと改裝されている。その際に、メガヒーム・ランチャーを運用するために、出力基や冷却系が強化された。



#### FA-78-1B

##### フルアーマー・ガンダム(タイプB)

FA-78-1 フルアーマー・ガンダムの火力を増強したタイプで、中距離爆撃に特化した仕様として開発された。複数の制震モードを持つ3連装ビーム・ライフルに加え、ミサイル・ランチャーやロングレンジ・ミサイルを装備する。戦後、データの一部が公開された。

#### FA-78-2

##### ヘビー・ガンダム

RX-78 ガンダムを量産化するプランに則って開発された機体で、フルアーマー・ガンダムと比較して、機体重量の軽量化と機動性が改善されている。支援装備であるガンキャノンやバストライナーなどと共同で運用することを想定していた。

改良

## RX-78NT-1 アレックス

ニュータイプ——アムロ・レイの搭乗を前提として開発された機体。一年戦争末期にサイド6のリボー・コロニーに施設に運び込まれ、G-4部隊のクリスチャー・マクシム・マクシム・マクシムとして開発が行われていた。マグネット・コーティングや最終期の全天周モニター、リニア・シートなど、当時最先端の技術が採用され、極めて高い機体性能を誇る機体として完成した。また、チョコバム・アーマーのはか、いくつかの増加装甲プランも並行して進められた。しかし、ジオン公国軍のMSとの戦闘で大破し、実戦運用されることはなかった。



## 増加装甲

### RX-78NT-1FA アレックス (チョコバム・アーマー装着型)

アレックスに追加装甲——チョコバム・アーマーを装備した状態。チョコバム・アーマー自体にもスラスターが設置されており、装甲の追加による機体重量が増加に対応している。また、各部に閉鎖機構を有しており、機体の運用性の低下を最小限に抑えている。



## 別仕様

### FA-78NT-1 フルアーマー・アレックス

チョコバム・アーマーとは異なり、フルアーマー・ガンダムと同等の増加装甲や武装を装備したアレックス。「FSWS計画」に則った姿容形態と言われるが、アレックスが大破したことやチョコバム・アーマーが実用化されたこともあり、実際に開発されたかは不明。



## FSWS 装束

### RX-78-5 ガンダム5号機

機数機が開発されたガンダムの派生機のうち、宇宙試作機の機体。コア・ブロック・システムを備え、高出力ジェネレーターと換装。これにより出力やスラスター推力などが向上した。



### RX-78-6 ガンダム6号機

背部に実体式のキャノン砲（300mm 復反動キャノン砲）を装備したRX-78のバリエーション。キャノン砲のほか4連装グレネードランチャーなど多数の実体弾兵器を装備。大型ランドセルや脚部のスラスターで機動性の低下に対応している。



## 統合

## パーツ共用

### RGC-83

#### ジム・キャノンII

RX-77.4 ガンキャノンIIの量産を目的に開発された中距離支援用の機体。ヒーム・キャノンを装備するほか、装甲にアレックスのチョコバム・アーマーの概念を取り入れている。そのため、重厚なシルエットとなっているが、機動性はジム改に匹敵すると言われる。



部品共用

## パーツ共用

### RGM-79N

#### ジム・カスタム

「連邦軍再建計画」によって開発されたジム系MS。アレックスのパーツ規格などが活用されているほか、開発もオーガスタ基地において行われた。ジム系MSのなかでは高級機にあたるが、突出した性能がないことも降がで「特徴がないのが特徴」とも指摘された。



発展

### RGM-79Q

#### ジム・クウェル

ジム・カスタムを改修した機体で、ティターンズ設立当初の主力機として配備された。コロニー内での治安維持なども想定されていたため、脚部センサーの増設をはじめ、センサー機能が強化されている。開発はルナツー工廠で行われ、のちに近代化改修もなされたとされる。



## 改修・改造

## サイコミュ対応

### MRX-002

#### NT専用プロトタイプ ガンダム

アレックスをベースに開発されたニュータイプ専用の機体。機体各部に有線式ビームを装備する。これにより機体重量の増大を招いたが、スラスターを増設することで機動性を確保している。また、胸部にマニピュレーターを持たない点も特徴。



発展



### RX-78NT-X MRX-003

#### ネテクス

サイコミュ技術の研究のために地球連邦軍が開発した機体。背部に2基の有線式攻撃端子を装備し、それを用いたオールレンジ攻撃を想定していた。本機で得られたデータは後のインコム開発に役立てられたと言われる。型式番号が2種あるのは、オーガスタ研究所からラムザ研究所に開発が引き継がれたためである。

### RX-78-7

#### ガンダム7号機

増加装備によるフルアーマー化を前提に開発されたガンダムタイプMS。MS単体でもアレックスに匹敵するカテゴリーバックを有するほか、機動性ではガンダム4号機や5号機を凌駕すると言われる。設計段階で終結したため、実機が開発されたかは不明である。



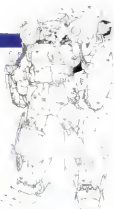
改修



別仕様

### RX-78AN-01 ガンダムAN-01 トリスタン

大破したアレックスをベースに、フック・ジャンク社が改造した機体。しかし、機体のほとんどは個所が新造パーツで構成されており、アレックスから引き継がれたパーツが多くなかったようだ。私兵集団「バーナム」に配備され、マスティカのMS部隊と交戦した。



### RX-78AN-01FA ガンダム・トリスタン 〈フェイルノート〉

ガンダムAN-01トリスタンに、フック・コンツェルンが試験的に開発した「フェイルノートシステム」を搭載した形態。全身に装甲と推進器が配され、さらにインコムも装備した一種のフルアーミー形態といえる。のちにフィン・ノズルなどの新機軸の装備に採用されている。

転用



### RX-78KU-01 クレヴェナール

バーナムが独自に開発した巨大アームドベース。ガンダムAN-01トリスタンを中核ユニットとし、機体上部の左右に配されたウェポン・コンテナにはミサイル・コンテナや大型クローなどの各種兵器が内蔵されている。武装をはじめ各種素材の入手経路は不明。

### HFA-78-3

#### 重武装フルアーミー・ガンダム7号機

フルアーミー・ガンダム7号機に「セカンド・アーミー」を装備した超重武装仕様で、ガンダム7号機に駆逐に匹敵する攻防力とMAクラスの推進力を付与することが、開発コンセプトになっている。機体後部の巨大な推進ユニットをはじめ、メガ・ビーム・キャノンなどを装備する。

アレックスに採用された技術の多くはその後のMS開発に影響を与えた。チョバム・アーミーを含めた増加装甲は、フルアーミー計画ともいうべき「FSWS計画」と関連もあったことから、以降も様々な形で発展し、MSの攻防力や機動能力を引き上げた。当初はガンダムタイプを中心としたハイエンドMS形だったが、その後は主力MSなどにも採用されるに至った。

### FA-78-3 フルアーミー・ ガンダム7号機

ガンダム7号機に複合増加装甲「ファースト・アーミー」を装着した形態。ビーム・キャノンや2連装ビーム・スプレッガーなどの武装を有し、中距離戦に適した仕様となっている。また、複合増加装甲が常態であるガンダム7号機と同時に開発されたこともあり、機体への負担が少ない点も特徴。



FA-010S  
フルアーミー  
ZZガンダム

増加装甲

進化

# RX-78N1 ALEX











## 増加装備の頂点たる MS用の「鎧」

MS用のオプション装備のうち、MSの全身を「鎧」のように覆着脱式の複合増加装備が、いわゆる「フルアーマー・オーバーレイション」(以下FAO)である。この名称自体はFA-78-1フルアーマー・ガンダム用の複合増加装備のものだが、本稿では便宜上、同系列オプション装備の総称として用いている。

先にFAOを「鎧」と表現したが、これは必ずしも正確ではない。確かにMSの全身を覆着脱式増加装甲ではあるのだが、武装や推進器を併設するのが一般的であり、センサー、照準器、ジェネレーターといった機器を備えるモデルすら珍しくない。つまり、FAOは増加装甲の域を越えた複合増加装備であり、攻防力の強化を中心としつつも、大量量化にともなう問題もフォローしているのだ。

加えて、ベースとなるMSに大きな改修を施さずとも搭載可能な点、あくまで外装オプションであるため任意にバリエーションが可能なのも優れており、MS用増加装備の頂点といっても過言ではない。コストや戦術の変化などの問題から普及はしなかったが、ガンダムタイプを中心に度々計画されることとなった。

## 「FSWS計画」による FAOの誕生と発展

FAOは、一年戦争時に地球連邦軍が推進した「FSWS計画」(Full-armour System and Weapon System=装甲および武装強化システム)に端を発するといわれる。

アムロ・レイ搭乗のRX-78-2ガンダムの戦役に注目した連邦軍は、少数精鋭部隊(ニュータイプ部隊)の編制を企図し、その運用MSとして戦艦級の攻撃力を持つガンダムタイプMSの開発を命じた。この際、浮上したのがFAO装備仕様であり、FA-78-1フルアーマー・ガンダムとして計画されるにいたった。もともと、一年戦争時にフルアーマー・ガンダムとその系列機が実際に製造されたかは不明で、FSWS計画の影響下にある機体としてRX-78NT-1FAアレックス(チヨム・フルアーマー装着型)が確認されているのみである。

その後、ビーム兵器の発達にともない重装甲より回避を重視する傾向が強まったこともあり、FAOの開発は停滞した。だが、耐ビーム・コーティングの発達を受けて研究開発が進み、FA-010Sフルアーマー・ZZガンダムのような怪物級の機体が生まれている。

## TECHNOLOGY INFO

### FAOとGメカ

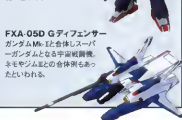
一年戦争時、連邦軍が計画したFAO以外のMS用強化オプションにGメカがある。その代表のGファイターはガンダムとの合体機構を持つ戦闘・航空機で、ガンダムの航続距離を延長するとともに、合体・分離機構を活用して様々な運用形態を実現した。グリスバ戦役期にはガンダムMk-II用のGディフェンサーが開発され、FAOに属する評価を得た。



Gメカと合体したスーパーガンダム。可変MSの脅威に対処するため、火力のみならず機動性も大きく向上させていた。

### FA-178 フルアーマー・ガンダム Mk-II

FXA-03Aフルアーマーシステムを装着したガンダムMk-II。Gディフェンサーと統合した時代の潮流に合致する。



### FXA-05D Gディフェンサー

ガンダムMk-IIと合体したスーパーガンダムとなる宇宙戦闘機。冬モヤシム記との合体例もあったといわれる。

## FAOの特徴

FAOは全身鎧型のMS用オプションで、増加装甲もたらし荷重性の向上に加え、併設武装により火力も向上させる。重量は増加するが、推進器も搭載されるため、機動・運動性は極端には低下しない。問題は高コスト化を余儀なくされる点。費用対効果を考慮するとハイエンド機以外では採用しにくい点などである。



FAO装備MSは、各時代で最高レベルの攻防力を有する。例外的な増加装備を任意にバリエーション可能な点も優秀である。

### 素体MS

ガンダムタイプのハイエンド機が大半を占める。FAOに対応するため、小規模な改修が加えられる。

### 増加装甲

「防盾装着型」と呼ばれる兼装型増加装甲。表面に耐ビーム・コーティングを施したものもある。

### 増加武装

増加装甲に組み込まれた武装。ビーム砲や連発ミサイルの搭載例が多く、射撃センサーも併設。

### 補助推進器

重量増大にともなう機動・運動性の低下を補うため推進器を搭載。原型機より加速性が向上する例も。

## FAOの素体MS

FAOの搭載ベースとなる素体MSは、最初期のFAO機フルアーマーガンダム以降、ほとんどがガンダムタイプである。これにはガンダムタイプがウルトラハイエンド機として開発されたという背景があるが、増加装備にパワー負けしない点も重要であろう。RX-78-7ガンダム7号機のように、FAOの搭載を前提に開発された機体も存在する。



各時代のカンダムタイプは戦術兵器の側面すら持つ高性能MSであり、FAOはその戦闘能力をさらに向上させた。

## ■素体MSとフルアーマー・オペレーション搭載時の性能差

	MSZ-010S 強化型ZZガンダム	FA-010S フルアーマーZZガンダム
頭頂高/全高	19.86m/23.14m	同左 同左
本体重量/全機重量	32.7t/71.6t	同左/87.2t
ジェネレーター出力	7,860kW	同左(増加装備によりパワーバック追加)
スラスター推力	124,800kg	同左(脚部などに推進器追加)
センサー有効半径	16,200m	同左
装甲材質	ガンダリウム合金	ガンダリウム合金
武装	ハイ・メガ・キャノン	左記に加えて
	ダブル・バルカン×2	腰部ハイ・メガ・キャノン
	シールド×2	胸部も連装ミサイル・ポッド×2
	ハイパー・ビーム・サーベル(ビーム・キャノン兼用)×2	腕部も連装スプレー・ミサイル・ランチャー×2ほか
特殊機能	専用18連装2段階ミサイル・ランチャー×2	
	ダブル・ビーム・ライフル	ネマティック状の多層化された耐ビーム・コーティングにより、約3秒ビームに耐える(実戦の性能はそれ以上)

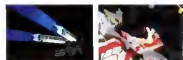
## 各時代のFAOとその推移

一年戦争末期、連邦軍のFSWS計画においてFAO搭載機FA-78シリーズが研究開発され、その影響下でアレックス用のチョバム・アーマーも実用化された。だが、基本的に対実体弾用だったという初期のFAOは、ビーム兵器の発達とともに開発が停滞してしまふ。

戦後、独自にFAOの開発を進めたのがAEI(アナハイ

ム・エレクトロニクス)社である。ガンダムMk-II用やガンダムMk-III用を計画したのち、強力な対ビーム防御能力を持つ自式改用やZZガンダム用を開発、さらにサイコフレーム技術を導入したガンダム用まで計画した。

対ビーム・コーティング技術が発達すると、FA-78用の基盤に属するジム用も開発されている。



現機改修機のフルアーマー・ユニコーンガンダムは実機機構の覆着を断つて、防弾面は3枚のシールドに依存した。

## フルアーマー・オペレーションおよび関係装備採用MS(一部)

機体名	機体	補記
FA-78-1 フルアーマー・ガンダム	RX-78-2 ガンダム	ガンダムのフルアーマー仕様は試乗のひとつ。対MS・対艦艇のトータルバランスに優れる
FA-78-1B フルアーマー・ガンダム(タイプB)	RX-78-3 G-3ガンダム	火力の向上、中距離爆撃に特化した。フルアーマー・ガンダムの試乗のひとつ
FA-78(G) フルアーマー・ガンダム陸戦タイプ	RX-78-1 プロトタイプ・ガンダム	陸戦用MSを要する陸戦部隊の要求により開発された、比較的軽量な機体
RX-78NT-1FA アレックス (チョバム・アーマー搭載型)	RX-78NT-1 アレックス	推進器一体型の増設装甲を搭載したアレックス。増設装甲は兵装を備えない
RX-78NT-1 フルアーマー・アレックス	RX-78NT-1 アレックス	アレックスのFSWS試乗機。増設装甲はフルアーマー・ガンダムに似た構成。タイタンズ機が喜んだことも
RX-78AN-01FA ガンダム・トリスタン (フェイタル)	RX-78AN-01 ガンダム AN-01 「トリスタン」	ブッシュ・コックピットで開発された増設装甲とされる。インコム、のちのフィン・ノズルに近い推進路などを搭載
FA-78-3 フルアーマー・ガンダム7号機	RX-78-7 ガンダム7号機	フルアーマー化を前倒しに開発されたガンダム7号機に、ファースト・アーマーを搭載した仕様
HFA-78-3 最終フルアーマー・ガンダム7号機	FA-78-3 フルアーマー・ガンダム7号機	フルアーマー・ガンダム7号機に、セカンド・アーマーを搭載。戦艦・MA級の火力を有する
RX-78GP01Fa ガンダム試作1号機 (フルアーマー・ゼフィランサス)	RX-78GP01 ガンダム試作1号機	ガンダム試作1号機のFSWS構想とされる仕様。関節部バー移動用エンジンシステムも計画されたという
RX-78GP01 ガンダム試作1号機 チョバム・アーマー装備	RX-78GP01 ガンダム試作1号機	ガンダム試作2号機との協同運用を定めた敵対射撃・EMP対策装備。機動性は著しく低下する
重武装フルアーマー・バーニアン	RX-78GP01Fa ガンダム試作1号機フルバーニアン	GP01HFAOとも、重武装フルアーマー・ガンダム7号機のセカンド・アーマーを調整・搭載した現地仕様
FA-178 フルアーマー・ガンダムMk-II	RX-178 ガンダムMk-II	ガンダリウム合金製装甲を中心とした、夜色増設装甲を搭載した試乗。U.C.0090ごろに完成されたとも
FA-00/GⅡ フルアーマー・ガンダムMk-Ⅱ	MSF-007 ガンダムMk-Ⅱ	機動性重視のガンダムMk-Ⅱの機軸を活かしつつ、夜色増設装甲を採用するべく計画されたもの
FA-00100S フルアーマー・百式改	MSR-00100S 百式改	百式改の試乗と装甲の強化を目的とした機体案。炸裂ボルト、リフレクター・パネルなど特殊装備が目立つ
FA-006ZG フルアーマー・Zガンダム	MSZ-006 Zガンダム	可変機構を保護するため、増設装甲を搭載した仕様。宇宙専用で、フライング・アーマーは未装備
MSW-004 ガンダム(ケストレル)アーマー・エクステリア	MSW-004 ガンダム(ケストレル)アーマー・エクステリア	複合増設装甲「アーマー・エクステリア」を搭載した状態。メインカメラの胸部モアイは撤出したままとなる
MSW-004 フルアーマー・ケストレル	MSW-004 ガンダム(ケストレル)アーマー・エクステリア	高機動ユニット「マニューバ・エクステリア」とアーマー・エクステリアを同時装備した状態
FA-010S フルアーマー・ZZガンダム	MSZ-010S 強化ZZガンダム	合体・変形機構の脆弱性を補いつつ、火力を強化した機体。この状態では変形に対応しない
FA-93HWS vガンダム (ヘビー・ウェポン・システム搭載型)	RX-93 vガンダム	内装のフル・サイコフレーム化などを構築した試乗。火器制御はサイコ・フレームとのリンクで行う計画だった
RGW-86RF-FA ジムⅡバードFA (アルドワグ)	RGW-86RF ジムⅡバード	フルアーマー・ガンダム用をベースに開発された、汎用の複合増設装甲を搭載。頭部にも増設装甲を装着する
RX-0 ユニコーンガンダム	RX-0 ユニコーンガンダム	既存のMSの兵装、SFSの推進器などを追加装備した現地改修仕様。シールドは3基を駆動する
XM-X1 クロスボーン・ガンダムX1フルクロス	XM-X1 クロスボーン・ガンダムX1フルクロス	ABC(アンチ・ビーム・コーティング)マントを強化化した特殊装甲、「フィールド発生装置」などを搭載した仕様
LM314V23/24 V2アサルトバスターガンダム	LM314V21 V2ガンダム	突撃・白兵戦用と中距離攻撃用のオプションを同時装備した形態。防弾装備は1フィールドほどと非装甲式が目立つ

## 一年戦争期

一年戦争時、連邦軍のFSWS計画でFAOの研究開発が開始され、フルアーマー・ガンダムをはじめとするFA-78シリーズを数機種計画した。戦後のガンダム開発計画でも研究されたようである。



## U.C.0080 年代後期

ガンダムタイプの開発はタイタンズ、ニュータイプ研究所、AE社に三分されたが、FAOに積極的だったのはAE社だった。ガンダリウム合金や対ビーム防御技術が多用され防御力が向上した。



## U.C.0090年代

AE社がガンダム用として内装をフル・サイコフレーム化したモデルを開発。アード・アーマーを全機種搭載したユニコーンガンダム・ペルフェクティビティもFAOに近い案であったとされる。



## U.C.0100 年代以降

MSの小型化にともない、機体のポリウムアップを強いられるFAO化は困難になるかと思われたが、F90系列機で試みられたとされるほか、V2ガンダムで重武装と広域防御が獨立可能となった。



## FAO機の戦術 1: バージによる戦闘移行

FAOの着脱機能を活か、状況に応じて複合増加装備をバージしつつ戦闘を移行する戦術。併設武装を使い切ったり、増加装甲が爆傷したりといった状況に陥っても、素体MSさえ無事なら不要となった増加装備を破壊して戦闘可能だ。



通常のMSなら、不要となったシールドの投棄に相当する戦術。爆傷した増加装備は自動的バージされることが多い。



被弾によって装甲を含む増加装備がダメージを負った場合、それをバージして戦闘を移行する。

## FAO機の戦術 2: 交戦距離による増加装備のバージ

交戦距離の変化にともない、増加装備をバージすることで最適な戦術を採る。ガンダム7号機が代表例で、中距離戦に移行する際にセカンド・アーマーを、近距離戦移行時にファースト・アーマーをバージして戦闘形態を変化させる。



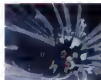
V2アサルトバスターは、突撃・自兵戦用と中長距離用の増加装備を併用しており、戦闘形態の変化に対応しやすい。



交戦距離に応じて増加装備をバージする。着脱が容易という増加装備の特性を利用した戦術法といえる。

## FAO機の戦術 3: 一対多

多数の搭載武装を駆使することで、FAO機単独で多数の敵機を相手取る戦術。増加装甲による高度な耐弾性も、一対多の戦術に導く。フルアーマー・ユニコンガンダムは、瞬間最大火力より継続戦を重視した武装構成と思われる。



フルアーマーZZガンダムのように多連装ミサイルを装備するタイプは多目標同時攻撃能力に優れ、一対多の戦術に適する。



増加装備に内蔵されたミサイルなどの兵装を使用することで、単機で多数の敵に対応することが可能となる。

## FAO機の戦術 4: FAO部隊

複数のFAO機を装備する部隊の運用。フルアーマー・ガンダムはニュータイプ部隊での複数機同時運用が構想されたといわれ、同タイプBも複数機によるシミュレーションが行われた。後述のFAZZも複数機が同時運用されている。



連撃装甲甲型でない真正のFAO機部隊の運用例は確認されていないが、シム忠の増加装備仕様はその可能性がある。



複数のFAOで部隊を構成。FAO機の運用法のひとつとして模索された戦術で、いくつかの運用例が知られる。

## 連邦系のFAOの発展と ジオン系での不採用

連邦軍のFSWS計画で提案された簡易装着型や直接重装甲型によるFAOの開発プランは、その後のMS開発に多大な影響を与えた。AE社製を含む連邦系MSでは改修案として、ガンダムタイプのFAO化プランが立案されたほか、ジムを中心とした量産MSでも簡易装着型や直接重装甲型（本項右下を参照）といったFAOの側面を持つ機体が多数開発されている。量産MSの場合、ジム・ストライカーやジェガンD型（エコース仕様）のような部分的な簡易装着型や、ジェガンD型やガンダムF90などの任務特化型オプションが引かれた。

だが、ジオン系組織はFAOに興味をささず、グフの直接重装甲型といえるMS-07C3 グフ重装甲型などの例外を除けば、ほぼ採用例がない。公明率はMSの耐衝撃強化に際して、装甲を変更することが多かったようだが、直接重装甲型のようなフォルムの変更をよしとしなかった。ザクII C型からII F型への改修に際して複合装甲に変更した例は有名な。大車重化による機動性低下を導いた処置と思われる。以後のジオン系組織も同様の傾向にあった。

## MORE INFO

### 戦時のフルアーマーの前線改修機

一年戦争時、前線で改修された機体のなかには、フルアーマー的な特性を持つMSもある。いわゆる「真正」のFAO機は知られていないが、ウェアラブル アプリーケーアーマー式の簡易装着型（RGM-79F デザート・ジムなど）や、装甲そのものを増した直接重装甲型（RX-79[G] Ex-8 ガンダムEx8など）のコンセプトを持つ機体が見られた。

ジオン公国軍ではアプリーケーアーマーと呼ばれる小型装甲を追加したMSもあったが、機能は限定されたようである。



**RX-79[G] WR フルアーマー・スレイヴレイス**  
特殊部隊スレイヴレイスの機体型ガンダム改修機。ウェアラブルアーマーなどを大幅に追加した機体。

**RX-79[G] Ex-8 ガンダムEx8**  
修復したコジマ大尉・第08MS小隊大尉の改修機。ザクII用シールドなどを用いて装甲を強化していた。

## FAOの発展的技術

MSに複合増加装備を装着する発想は、オプション換装機構との融合などにより、さらなる発展を見た。FSWS計画の影響下で開発が進んだシーラインは、素体MSを中心に複合増加装備を換装することで性能傾向を変化。「Z計画」系のSガンダムは、ムーバブル・フレームにより機体の一部ごと換装可能な設計だった。



RX-81  
シーライン



RX-81LA  
ジーライン・  
ライトアーマー



RX-81ST  
ジーライン・  
スタンダード  
アーマー



RX-81AS  
ジーライン・  
アサルトアーマー



MSX-0011  
Sガンダム



MSX-0011(Eat)  
Ex-Sガンダム

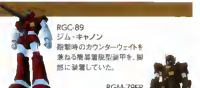
### 部分的「簡易装着型」換装の普及

一般的なFAOは簡易装着型と呼ばれ、蓋脱可能な接続方式で素体MSに外装される。この方式を用いた増加装甲は、一年戦争時から連邦軍の量産MSやその改修型でも度々採用されたことで知られる。最初期のものがジム・キャンノンの胴部装甲や、ジムF型系列のウェアラブルアーマーだった。

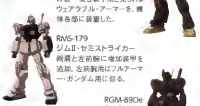
ジム系列の簡易装着型増加装甲は多くの場合、装甲機能限定型。FAO同様、パージ機能を持つのが一般的だ。



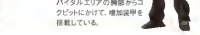
RGC-89  
ジム・キャンノンの胴部装甲は、一年戦争時のカウンターウェイトを兼ねる簡易装着型装甲を、胴部に装着していた。



RGM-79FP  
ジム・ストライカーの装甲は、一年戦争時から連邦軍の量産MSやその改修型でも度々採用されたことで知られる。最初期のものがジム・キャンノンの胴部装甲や、ジムF型系列のウェアラブルアーマーだった。



RVS-179  
ジムII・セミストライカーの両肩と左前腕に増加装甲を追加。左前腕用はフルアーマーガンダム用を参照。



RGM-89De  
Exガンダム型（エコース仕様）のバイタルエリアの胸部からコクピットにかけて、増加装甲を搭載している。

### 直接重装甲型の変遷

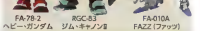
FSWS計画では簡易装着型以外の強化策として、MS本体の改修する直接重装甲型の開発プランも浮上った。結果、設計されたヘビーガンダムは、フルアーマーガンダムで問題視された機動性の低下を軽減している。フルアーマーZZガンダムの試験機にあたるFAZZも基本的に非可変の直接重装甲型だった。



FA-78-2  
ヘビーガンダム



RGC-83  
ジム・キャンノンの胴部装甲は、一年戦争時のカウンターウェイトを兼ねる簡易装着型装甲を、胴部に装着していた。



FA-010A  
FAZZ（ファッツ）



RGM-78-1  
フルアーマーガンダム

RX-78NT 1FA  
レックス（ザクII用シールドなどを用いて装甲を強化した機体）

FA-010S  
フルアーマーZZガンダム

ポリウムアンプしたMSは直接重装甲型ではない。パワードガンダムは動力装置や推進器を強化した機体だ。

# 姿勢制御バーニア

宇宙艦艇や宇宙機の姿勢維持・変更装置として普及したロケット・モーター「姿勢制御バーニア」は、AVGACシステムを備えるMSやMAも搭載しており、時代を越えた技術となっている。





## ロケット・モーター式の 姿勢制御装置

姿勢制御パーニアとは、文字通り機体の姿勢維持・変更に使用される小型ロケット・モーター（エンジン）であり、宇宙用ビークルを中心に搭載されている。アポジ・モーターと呼ばれることもあるが、これは人工衛星の軌道投入に用いられるアポジキック・モーターから転化した言葉で、宇宙世紀においては姿勢制御パーニアを指す用語ともなっている。大きな推進力を生み出す推進器（スラスター）や、機動・運動性の向上を目的に搭載される高機動パーニアとは機能が異なる点に注意が必要だ（偏向機能を持つ推進器や高機動パーニアの導入によって、制約が大きく緩和されている。もともとMSも姿勢制御パーニアを装備しており、AMBACシステムと併用するのが一般的である。この組み合わせはMSの黎明期に確立され、U.C.0150年代にいたっても変わっていない。

## MSにおける姿勢制御パーニア

MSは姿勢制御装置としてAMBACシステムと姿勢制御パーニアを搭載する。どちらか一方でも姿勢制御（機体の姿勢変更・維持）は可能だが、効率や姿勢変

更速度を考慮して併用することが多い。なお、パーニアは固体燃料式と液体燃料式があり、どちらを搭載するかは機体や開発時期などによって異なる。

### ■機能①: 単独での姿勢制御

当然ながら姿勢制御に使用される。手持ち兵装の搭載、射撃姿勢の維持、四肢ユニットの損傷などによりAMBACシステムが使えない場合は、姿勢制御パーニアのみで姿勢制御を行うことになる。



腕部は火器やシールドを搭載することが多いため、戦闘機動時や急制動での使用率は高い傾向にある。

### ■機能②: AMBACシステムとの併用

AMBACシステムと姿勢制御パーニアの併用が、燃費や姿勢制御の所要時間の面で理想的といえる。兵装の装備位置や大質量による効率低下などの理由から、両部AMBACシステムとの併用が多いようだ。



AMBACシステムで制動をかけた後、姿勢制御パーニアで回転を制正するといった併用方法がある。

### 搭載位置

姿勢制御パーニアの搭載位置は、機体を立方体に見立てた場合の各頂点にあたる8ヶ所が理想的である（各パーニアは偏向タイプ、またはベクトルが異なる噴射口を複数持つタイプが適する）。対角線上の姿勢制御パーニアを同時に使うことで、上下左右のロールに対応できるためだ。大型のMSはこの要件を満たすべく、肩、腕部、胴体各部などに分散配置される。



宇宙艦船や航空機では可能な限り船体（機体）の隅に搭載することで、効率化している。



MSは両肩のパーニアを互方向に噴射することで、機体の姿勢変更を高速化できる。

### ■姿勢制御パーニアの搭載位置 (アレックスの場合)



※青い部分が姿勢制御パーニア

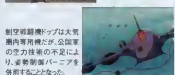
## TECHNOLOGY INFO

### MS以外の姿勢制御パーニア

宇宙で運用される機体は軍用、民間用を問わず姿勢制御パーニアを搭載している。全長数百mの宇宙艦から1人乗りの宇宙用スクーターまで、ほぼ例外はない。ただし、機体が大型化すれば姿勢制御パーニアも巨大化し、搭載数が多くなる。最大級のもののがスペースコロニー用で、軌道や自転軸の修正・安定化に用いられている。



ジオン全国軍のMA、MAN-03 プラウ・プロは巨体ゆえにAMBACシステムを備えず、機体各部のスラスターで姿勢を制御した。



制空戦闘機ドップは大気圏内専用機だが、公国軍の主力技術の不足により、姿勢制御パーニアを併用することになった。



ソーレイは射撃調査用に巨大な姿勢制御パーニアを備える。先はコロニーの姿勢制御装置だったようだ。

### 搭載数の変遷

MSの姿勢制御パーニアの搭載数は、U.C.0090年代にかけた増減傾向のもの。第二期MSの登場にともない爆発的に増加した。U.C.0150年代には減少したが、第二期MSの搭載数は第五世代以前より多い。



第二期MSでのパーニア増加は、実装密度の向上・小型化によるAMBACの効率低下などが理由とも考えられる。

### ■各時代の主力MSにおける姿勢制御パーニア数

	通称	反動抑制
一年戦争	14(シムコマンド 宇宙用機)	14(ザクⅡ)
グリアス戦役	10(ジムⅡ)	12(ネオ)
第一次ネオジオン戦争	8(ジムⅢ)	16(ガルスⅡ)
シャアの反乱	19(ジェガン)	15(ガンダムⅠ)
コスモバシリエロニア連動戦争	59(ヘビーガン)	84(デナンソノ)
ザンスカール戦争	18(ジャベリン)	39(プロアクト)

### 姿勢制御における比重

宇宙艦船や航空機では、姿勢制御に占めるパーニアの割合はほぼ100%だが、MSでは機体のコンセプトによってAMBACシステムとの比重が異なる。単純化す

るなら、姿勢制御パーニアが多いほどAMBACシステムへの依存度が小さいが、高性能MSは姿勢制御パーニア数が多い傾向にあるため絶対的な指標ではない。

### ■AMBACシステム重視型

グリアス戦役期に顕著な傾向として、四肢以外のAMBACシステムを有するMSは姿勢制御パーニア数が少ない。Zガンダムの搭載数はわずか8基だった。



可変MSのバンブラは14基のみの搭載だが、格闘戦能力はZガンダムに劣らなかった。



### ■姿勢制御パーニア重視型

MSとしては例外的な仕様で特殊機に多い。ジロはグリアス戦役期の機体ながら、第二期MSに迫る50基以上を装備し、突出した機動・運動性を誇った。



サザビーは同時代のMSの約2倍にあたる820基を搭載。これをサイコミュ経由で操作した。





# サイド6(新サイド5)

人口を減らすことで一年前より倍々延びたサイド6は、地球連邦やジオン公国  
の争奪地。30万人、有万名の子供の移住先。連邦・公国間の緩衝地帯と交渉ルート  
の要衝としており、極めて重要な存在に昇格した。



## 一年戦争の戦火を回避した 中立コロニー群

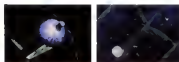
リアアとサイド6(コロニー内生計)両族はサイド5は、一年戦争での被害が極めて小さかった数少ないコロニー群である。一週間戦争とルウム戦役でサイド1・2・4・5が壊滅するなかにも市民生活を維持し、サイド3=ジオン公国のように多くの戦火・戦死者を出さなかったのは特筆に値する。

サイド6生存の要因として挙げられるのが中立宣言であり、中立地帯の地位と待遇を定めた南極条約によって、その立場は強固なものとなった。ただし、サイド6のランク政権は、公国の後押しで誕生した親公国政権だったことが確実視されており、一年戦争の緒戦で攻撃対象とならなかったのも、公国との裏取引があったためといわれている。

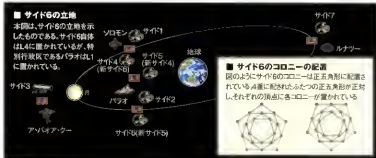
つまり、サイド6生存の要因は親公国体制と中立にあるのだが、地球連邦との関係も決して悪くはなかった。公国、連邦の双方にとって交渉窓口や緩衝地帯となるサイド6の存在は政治的メリットがあったのだ。また、南勢力はサイド6に経済平等施設を設置しており、ランク政権もこれを承認していた。

### サイド6の立地

サイド6(新サイド5)は、サイド2と同じL4に建設された。同じラグランジュポイントに位置するサイド2が一週間戦争で壊滅的被害を受けたにもかかわらず、サイド6のみが無傷だったのはきわめて不自然であり(L5のサイド1とサイド4はともに壊滅)、事前に公国との裏取引があった嫌疑となっている。



サイド6にいたる主要軌跡のうち、L5は宇宙要塞ミノムシで封鎖され、L4ではサイド6が緩衝地帯として機能していた。



### 政治的立場とその推移

一年戦争の初期に中立宣言したサイド6は、連邦と公国の双方から中立を認められ、被災を避けることに成功した。この中立性は南極条約で法的根拠を持つに至り、連邦軍と公国軍はサイド6内での戦闘行為を禁じられる一方で、等客通行権、各コロニーへの寄港、武器以外の補給などが認められていた。



サイド6は入港権の譲渡を封討する権利を有した。連邦-公国両軍の艦艇が、サイド6の周辺に滞在することもあった。

### 親公国政権の誕生

U.C.0077.07、ランク・キブロードを首魁とする政権がサイド6で発足。公国軍の介入があったといわれ、ランク政権の親公国姿勢は既に始まっていた。



政権発足時、公国軍教導機動大隊が介入したといわれる。

### 中立宣言

一週間戦争直後のU.C.0079.01.11、サイド6で中立を宣言し、連邦・公国の両政府がこれを承認。サイド6が戦場となる可能性は低下したのだった。



南極条約で法的裏付けを得て両軍の青竜地帯にもつた。

### 中立性の低下

表向き中立を守りつつ、連邦・公国両軍による軍用施設設置を黙認。12月17日には公国軍軍艦に誤発命令を出す、直接リボで戦闘が発生した。



戦争末期には連邦側にも中立性を失いつつあった。

## MORE INFO

### サイド6の政治と軍事

サイド6本来の政治体制は、他のサイドと同じく連邦の中央政府が首長を指名する間接統制型であり、限定的ながら自治権を有する。親公国ながら連邦ともつながりを持つランク政権の成立、連邦・公国を問わず政財界重鎮の子弟が多数移住(疎開)したとされる点、工業・農業などの産業面にも秀でた点などが特徴だったといえる。

### 親政治面

サイド6独自の議会や官庁を持ち、司法-行政-立法は連邦政府から独立しているように、首長の任免権も連邦政府が握っているため自治権は空文化しているが、一年戦争時は独立国に近く、親政治体制だったと見られる。



他サイドと同様、通貨の発行権を有しており、サイド6内で独自通貨の「ハイト」(1ハイト=1000クル)が流通。

### 軍事面

本来は連邦軍が駐屯するが、一年戦争で不在の時期が長かった。戦終以降の連邦軍の戦力不足、南極条約の締結が主因と思われる。その後、防衛はサイド6独自のリアア軍が担ったが、MSには対抗できなかった。



リアア軍の装備はミドルMS、小型の戦艦バム、ミサイル、エスカなどに過ぎない。宇宙船舶を保有しているが不明だ。

### サイド6の所属コロニー

一年戦争でサイド6が受けた被害は限定的だった。フラナガン機関が置かれたバルダやRX-78NT-1アレックスが持ち込まれたリボも存続しており、終戦までに失われたコロニーはなかったようである。

他のサイド6のコロニーとしては、28パンチのユビテル、29パンチ、アルカ、アガルタII、ウクライナ、オントリオ、カミグサ、サードI、ニュー・マティラ、フランチェスカなどがあるとされる。

### ■8パンチ・バルダ

一般的に居住コロニーだが秘密裏に公国軍のニュータイプ研究所「フラナガン機関」が置かれた。ホワイトベースが寄港したこともある。



### ■リボ

工業地帯を有する居住コロニー。UNメディアセンターに連邦軍のMSが運び込まれた結果、公国軍の攻撃を受け被害を出した。



### ■フランチェスカ

海洋型の観光コロニー。内部の70%を占める海洋エリアはコロニーの窓の上にもまで広がっている。「最低のコロニー」との評もある。



### ■新サイド5時代

新サイド5への移行後も、リボなどのコロニー名は継続。18パンチメーデスや資源衛星バルアの所属は不確かな部分がある。



# GUNPLA Generation

ガンプラ ジェネレーション

ガンダム・シリーズの長寿化に尽力してきたバンダイ製  
ガンプラ、その進化の過程を機体ごとに紐解いてみる。

## vol.27

### ●RX-78NT-1 ガンダム NT-1

ガンダムシリーズ初のOVA作品『機動戦士ガンダム 0080 ポケットの中の戦争』（以下、『0080』）。その中で主役機を務めたガンダムタイプMS、それがアレックスことガンダムNT-1だ。

#### 「専用設計ポリキャップ」という新発想

「0080」シリーズのガンプラにおける最大の特徴は、各MSごとに専用ポリキャップが新規設計一発用されたことだ。そこにボールジョイントを組み合わせることで、各MSごとにおける特徴的な可動を可能とした。主役機である1/144スケールのガンダム NT-1（1989年8月発売 価格864円）もちろん同様の設計スタイルが採用されていたと共に、パーツの差し替えにより、チョバム・アーマーの装着と腕部90mmガトリング・ガンの展開を再現することができた。もちろん相応に価格は高くなったが、いざいざの製品化でチョバム・アーマーが付属したのはいずれいプレゼントであった。バンダイとしてもなかなかの英断であったように思う。

なお、メカニカルデザインはガンダムシリーズの船作にあたる「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」と同じく出淵治氏を務めたため、バンダイの社内には同氏デザインによるMSを造形表現するノウハウが蓄積されており、このガンダム NT-1に限らず、1/144の「0080」シリーズはどのMSも非常に良好なプロポーションを有した製品と化していたことも付記しておくべきだろう。

1/144のガンダム NT-1では、収納状態のビーム・サーベル2基をランドセルに収納することができた。



ドラマ性の高いイラストレーションが採用されたパッケージは、ミリタリズム溢れる仕上がりであった。



#### 卓越した最新キットのリリースにより 一気に盛り上がりを見せたアレックス

ガンダム NT-1のリニューアル製品化は1/100 マスターグレードモデル＝MGからスタートしたのだが、奇しくもそれは、1/144キットの発売からほぼジャスト10年後のこととなった（1999年10月発売 価格3,240円）。パッケージイラストレーションがチョバム・アーマー装着状態で描かれていた事実が象徴するように、チョバム・アーマーがたまたま扱えるだけでなく、肩部はスライド式、肩部は展開式でメンテナンス状態が再現できるな

1/100 MGの肩関節中甲は、新設計が可能。組み立てた後にも、内部メカニクスを増強することが可能だ。



ど、キットの中で重要な役割を占めていた。また、肩関節ブロックには軟質ラバーパーツを採用し、リアルな質感を追求。腕部カバーにはスライド展開ギミックが仕込まれており、90mmガトリング・ガンの発射状態が再現できるなど、MGならではの充実感溢れる仕上がりが特徴と云えた。

繼いでリリースされた1/144 ハイエグレードユニバースセンチュリー＝HGUC（2004年6月発売、価格1,620円）は、よい意味でMG



「MGのスケールダウン高価版」的内容の1/144 HGUC、劇中未登場の付属武装は設定画からの立体化。



最新作 1/100 MG Ver.2.0は、とにかく圧倒的な完成度、とくに顔面パーツの造形がすばらしい。

のスケールダウン高価版の内容と化した。胸部ガトリング・ガンの展開はスケールに忠実に替え式と化した。が、版式チョバム・アーマーはスライド展開ギミックこそ存在しないものの、装甲表面のディテールは1/144としては十二分なものとなっている。

そして、アレックスのファンとしては「待っていました！」と声に上げて叫びたいであろうアイテムが、つい最近（2019年6月）に発売された1/100 MG Ver.2.0だ（価格 6,264円）。最大の特徴はMG特有であるMS本体の内部フレームが再現されているだけでなく、チョバム・アーマーの内装フレームが完全にパーツ化されているため、チョバム・アーマーの外装を取り外した際に、猛烈に複雑でメカニカルな姿が拝める点にある。

さらに、このキットならではのオリジナルパーツとして、「劇中再現用の折れたブレードアンテナ」と、さらにボーナスパーツである「BB戦士ガンダム NT-1の制作ギミックであったヘッドギア」が付属。リアルガンプラとBB戦士がMG上で邂逅するという、ある意味においてはタイミングポイント作とも取り得る特別な逸品と化したのだ。



■ヘッドギア機構

頭部を覆い隠すヘッドギアが、MG Ver.2.0のボーナスパーツ。チョバム・アーマー装着状態の姿も美しい。



# NEXT MS

次号予告

ISSUE  
28

## お知らせ

諸般の事情により、「ガンダム・モビルスーツ・バイブル」は、しばらくの間、隔週刊での発売にさせていただきます。  
次号、第28号の発売は10月15日(火)です。

## シナンジュ

「シャアの再来」を標榜する「袖付き」の首魁、フル・フロンタルが駆る真紅の専用機。圧倒的な機動性を発揮して地球連邦軍を翻弄した。

お買い得なく愛用！ 隔週刊をメールでお知らせします！

発売日お知らせメール

<https://daagostini.jp/oshirase/gms/>

- 戦術レポート  
激震！ シャアの再来
- MS機体解説  
機体解説／武装解説
- 関連MSラインナップ  
シナンジュと関連機体
- MSバイロート  
フル・フロンタルと周辺人物
- MS戦記  
シナンジュ 戦記の記録
- MS進化論  
シナンジュ 開発系語図

- メカニック・ジャブール  
インテンション・オートマチック・システム
- サイコ・フィールド
- ガンバール ジェネレーション  
装甲の有無によって  
変化するシルエットを検証！

第28号

10月15日(火) 発売

定価：(本体639円)＋税

※各地域によって発売日が異なる場合があります。  
※マガジンの内容が変更となる場合があります。

常人では追従できないほどの機動性を発揮するMSを検証！

ガンダムMSバイブル  
専用マガジンケース  
好評発売中!!

通常価格

1,230円

(税別)

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌約10冊分を収納できます。

※初回でもご購入いただけます。※発売日は変更になる可能性があります。

巻頭に便利な  
ステッカー  
付き!



好評  
発売中

バック  
ナンバー  
ご案内



22 リ・ガズィ



23 ビグロ



24 ガンダムF91



25 ジム



26 ヤクト・ドーガ

※第1号～第21号も好評発売中。全国の書店で買い求めください。

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説！

GUNDAM

# MS Bible

THE OFFICIAL

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

RX-78NT-1 / アレックス



27

2019.10.15 10.22 合併号

## アレックス

ALEX



Total Height : 18.0m  
Weight : 40.0t  
Total Weight : 72.5t  
Material : Luna Titanium Alloy  
Generator Output : 1,420kW  
Thrusters Total Propulsion : 174,000kg



ニュータイプの反応速度に対応すべく、各種技術を導入された新型ガンダム



DeAGOSTINI

